

京王電鉄で過敏症に配慮し、携帯電話使用者に注意

伊藤香さんは、自宅のフローリングのフロアマニキュアの剥離作業がきっかけで化学物質過敏症を発症し、その後電磁波過敏症を併発しました。

外出する際は「ヘルプマーク」と携帯電話の電源オフをお願いするカード（当会発行、写真1）をバッグにつけているそうですが、これまでに周囲の乗客が使う携帯電話電磁波で体調を崩し、車内で嘔吐したことが2回あります。「電磁波に被曝すると空咳が出て頭痛がし、むかつきが始まって嘔吐します。自分の吐瀉物を掃除してもらうのは、情けないし申し訳ない気持ちでした」といいます。

関東で、優先席の電源オフ規制が緩和されることを知った際、伊藤さんのお連れ合いが、「妻は携帯電話の電磁波で具合が悪くなるが、どうしたらいいか」と京王電鉄にメールで相談すると「困ったことがあったらSOSボタンを押すか、駅員に知らせてください」という回答があったそうです。ただし、「何両目にこういう人が乗っているから配慮して下さい、という車内アナウンスはできない」ということでした。



ヘルプマークと、当会が作成した電源オフをお願いするカード（伊藤さんのホームページ <http://hanachancafe.com/aboutme.html> より）

伊藤さんは「周りの乗客に電源オフを頼むのは気がひけませんが、また嘔吐するわけにはいかないので、必ず優先席に座り、電源オフをお願いするカードや診断書を見せて、周囲の乗客に電源オフを頼むことにしました。ほとんどの方は協力してくれるし、こちらの体調を気遣って

くれる人もいます。降車時には、必ずお礼を言っています」。

また、私鉄では乗務員が乗っている先頭か最後尾の車両の優先席を利用し、JRでは「サ」という記号のついた車両に乗ります（表1）。

表1 JRの車両についての記号の意味

記号	意味	
ク	運転台のある車両	記号は、車体の外側、車両内部に示されている
モ	モーターのある車両	
サ	モーターも運転台もない車両	
キ	機動車。ディーゼルエンジンなどのある車両	

駅員6人がかりで携帯電話の停止を説得

2015年秋の昼頃、京王電鉄を利用した際、優先席付近に行き、乗車してすぐに携帯電話の電源オフをお願いしました。周囲にいた乗客5~6人はすぐに電源を切ってくれましたが、優先席の正面にある座席に座っていた50代の男性は伊藤さんの願いを無視し、むしろ携帯電話を伊藤さんに向けてるようにして操作しだしたそうです。

伊藤さんは周囲の乗客に対し「私はすでに2回、電車内で吐いたことがあります。頭痛が起きているし、もうすぐ吐くと思う。駅員には何かあったらSOSボタンを押すよう言われているので、押してもいいですか?」と尋ねました。周囲の乗客が了承してくれたので、伊藤さんはSOSボタンを押しました。電車は、伊藤さんが乗車した駅の隣駅で停止しました。

対応にやってきた駅員は、伊藤さんが持っていたヘルプマークと、電源オフをお願いするカードを見て、すぐに事情を察してくれたそうです。携帯電話を使っていた男性に対し駅員は、「具合が悪くて困っている人がいるんだから、携帯電話を止めるか、優先席から離れた席に行くか、電車を降りてほしい」と求めましたが、男性は「使っていて何が悪い」と言って使用を続けました。駅員は「この方は、本当に病気で具合が悪くなるんだから」と訴え、最終的には6人の駅員が説得にあたったそうです。乗客からも男性に対し「お前、日本語がわからないのか」という声が上がりました。

「携帯電話を止めるか、電車を降りるまで走らせません」と駅員は伝え、結局、男性はその駅で下車したそうです。その間、電車は15分ほど停止することになりました。

「周りの人はシンとしていましたが、車両全体に事情が伝わったようです。駅員の対応で、こういう病気があることが理解してもらえたのではないのでしょうか」と伊藤さんは考えています。

この他にも、別な私鉄で周囲の乗客が使う携帯電話の電磁波で具合が悪くなり、乗務員室に入れてほしいと訴えて、下車するまで乗務員室で過ごした患者さんもいるそうです。乗務員は「こういう事情で乗客を乗務員室に入れている」と連絡していたといいます。

伊藤さんは「具合が悪くなったら積極的に駅員に伝えたほうがいい」と考えています。また、周囲の乗客には、「通勤や通学もできなくなった患者も多いことなどを伝え、降車時にはお礼を言っています。初めて電源オフをお願いされた人は戸惑うかもしれませんが、二度目に同じことがあれば、理解してもらいやすいのでは」といいます。

「話してみると、なかには『大声で電源を切れ』と言われて不快だったという方や、『ノイローゼだと思った』という方もいる。体調が悪くて余裕がなかったのだと思いますが、健常者にはこの辛さを体感できないので仕方ない。自分の言葉で辛さを伝えて、理解してもらおうよう頑張るしかない」。

優先席付近の電源オフが緩和されてしまったのは、大変に残念なことです。政府は2020年の東京オリンピックまでに第5世代移動通信(5G)を導入する方針ですが、5Gが始まれば、携帯電話の出力は2倍になりますし、使用する周波数も高くなる可能性があるため、交通機関や公共空間での被曝量増加が懸念されます。

日本弁護士連合会が「電磁波問題に関する意見書」で提言したように交通機関での電源オフなど、人権保護の観点から発症者への配慮が不可欠です。

はなちゃんカフェ 伊藤さんは、環境アドバイザーの資格を取得し、患者さん同士の交流を促したり、過敏症関連の書籍を閲覧できる「はなちゃんカフェ」を運営しています。<http://hanachancafe.com/index.html>
問合せ：電話 03-6303-3740（電話対応は午前9時～午後9時。緊急の場合は対応）

ヘルプマーク 内部障害者や妊娠初期の人など、一見健康に見える人でも、優先席に座ったり支援を受けやすくするため東京都が2012年から無料配布を開始。配布する自治体も増加中。入手方法は自治体に確認を。

EHS カード 現在、在庫切れですが、希望者が多ければ再販します。1枚300円。「電磁波過敏症です」という文章と携帯電話のイラストが片面に印刷されています。ご希望の方はご連絡ください。